

## 審美的要件を達成するためのデジタルの有効活用 Effective utilization of digital technology to achieve aesthetic requirements



Tadakazu Obama

小濱 忠一

医療法人社団翔悠会小濱歯科医院

近年のインプラント治療は、以前は予想できなかった審美性と機能性の回復をより確実に、短期間で行えるようになってきている。これはインプラント治療に関する様々な基礎的、臨床データの蓄積による治療概念の進化とその支援ツールであるCBCTとCAD/CAMの多大な恩恵と言っても過言ではないであろう。「治療ゴール」は今も昔も不変であるが、「治療概念と戦略」は時代の進歩に伴い変化し続けるものである。審美領域で2回法待時埋入が主流だった前歯部治療も1回法抜歯即時埋入そして即時負荷に関するリスクへの対応が解明され治療概念が確立された現在、適切な症例選択のもと、積極的に治療計画に生かしていきたい。これらの臨床応用は、術者・患者双方に大きなメリットをもたらすからである。

審美領域におけるインプラント治療は、欠損補綴の1オプションであることを念頭に置くべきである。治療ゴールは天然歯修復と同等を目標とするが、そのためにはインプラント特有の生物学的背景に補綴的要件を加味した診断に対する治療計画は必要不可欠である。そのため、ガイドドサージェリーや補綴装置デザインに利用するシミュレーションソフトと製作のためのデジタルシステムを活用することは審美的要件を達成するために必要不可欠である。

そこで、本講演では、基礎面、臨床面から確立した前歯部インプラント治療におけるデジタルシステム活用の有効性について解説したい。

### 【略歴】

- 1981年 日本大学松戸歯学部卒業
- 1984年 原宿デンタルオフィス勤務
- 1986年 小濱歯科医院開業
- 2006年 日本大学客員教授
- 2013年 医療法人社団翔悠会 小濱歯科医院設立
- 2023年 東京医科歯科大学 口腔再生再建学分野・口腔インプラント科 非常勤講師